

第一支部

支 部 報 告

1、第3回地区勉強会

日 時：平成24年5月30日（水） 19：00～20：30（受付18：30～）

場 所：コムナーレ浦和9階（浦和パルコ）第15集会室

参加費：500円

参加者：55人

内 容：①公益社団法人移行に関する説明 埼玉県診療放射線技師会 副会長 堀江好一

②MRI

さいたま市立病院 三橋則行

『磁場強度の違いを臨床画像で活かそう！』

～ 1.5T VS 3.0T ～

③医療被ばく

済生会川口総合病院 志藤正和

『医療被ばくと被ばく低減施設取得への取り組み』

機器展示 18：30～21：00



今後の予定

1、「浦和区健康まつり」開催

さいたま市市民活動および協働の推進助成事業として「浦和区健康まつり」に第一支部として参加します。

日 時 平成24年11月3日（土曜日）10時～16時

場 所 浦和コミュニティセンター（浦和駅東口コムナーレ10階）

主 催 さいたま市浦和区保健センター

協 働 アシスト浦和21

内 容 ・医療で用いる放射線検査についての説明
・無料骨密度測定の実施

第二支部

平成24年度 第2地区第1回勉強会開催報告

日 時：平成24年4月19日（木）18:30～20:30

場 所：所沢市保健センター 2Fホール

参加者：75名

1) 豊岡第一病院 山下隆行

製品紹介では東芝メディカルシステムズMRI担当 鈴木道貴氏より「3TMRI Vantage Titan3T」の最新情報であった。受診者にやさしい71cmの大経口Open Bore、短軸システムを実現し検査が困難な受診者がリラックスして受けられるようになった。そして、大経口により四肢等の撮像で応用が可能になった。

3Tの課題であった体幹部ではMulti-phase Transmission採用。3Tによる体幹部撮像ではRF磁場（B1）の不均一の影響が大きい。Multi-phase Transmissionでは位相と振幅を調節して、均一な磁場を形成できるように調整する。さらに、給電ポイントを4ポート、アンプを2つに増やすことで、人体が入った状態での補正の精度が向上した。腹部・骨盤部の画像ムラを改善し、均一で安定した画像が得られるようになっている。

今後Titan3Tの新しい技術、シーケンスの開発に期待したい。

一般研究発表では東芝メディカルシステムズ MRIアプリケーション担当 宮田知子氏より「非造影MRAでの鎖骨下動脈の描出について」を発表された。今回は比較的どの施設でも使用している装置で東芝独自のFBI法を使用し、TI、TEの撮像条件を変更し比較検討であった。TE30msでは動脈が低信号になる収縮期で、欠損部の動脈信号が残存する。TE80msを使用することで偽狭窄の出現を低下させることができた。TIはPSより鎖骨下動脈の最大流速がR波から150ms程度であった。そしてK空間の中心到達時間が150msであることが望ましいと考えられるTI+TE+ディレイ時間=150ms程度がポイントということで、ディレイ時間と背景信号を低下させるにはTI100msが最適である。

呼吸同期は使用することで画質向上に適しているが、撮像時間の延長があるため、注意が必要である。今後、非造影の検査が増加していく中でシーケンスの検討、研究を期待したい。



2) 所沢ハートセンター 柴俊幸

原田病院瀧澤氏より2地区役員施設を対象にした震災に関するアンケート調査の結果を報告していただいた。

地震大国とも呼ばれる日本で大きな被害をもたらす震災の発生が懸念され、医療従事者ならずともその意識を高める必要性も感じさせられる。

本報告での報告内容は2011年3月11日の関東大震災発生時に行っていた業務内容や災害発生時の施設及び放射線技師の対応、災害発生時に対する対策がなされているかなどを問うたアンケートの報告であった。患者誘導や避難経路の確保など各個人の災害時の対応としては概ね行われているものの院内マニュアルについての有無やその内容については不安が残る結果となり、今後の課題とすべきである。また、非常時の検査については予約が困難になることや電力供給の不安定さから医療従事者及び患者負担も大きくなると考えられ、十分なインフォームドコンセントや施設内での取り決めの重要性が窺える。

医療スタッフとして患者の安全・安心の確保に努めるためには、各個人で動くことの他に、他のスタッフ及び周囲地域の施設や公共施設、そして技師同士のつながりも強固なものにしていかなくてはならないのではと考えさせられた。

和光病院横島氏よりFull Filmlessシステム導入について報告して頂いた。近年、院内のあらゆるシステムがデジタル化され、放射線検査についてもフィルムレス化される施設は増加の一途を辿っている。

メリットとしては診療報酬改定に伴う様々な加算や、他施設との医療連携時に円滑に情報の授受を行うことが可能となる。しかし導入時の費用やランニングコストが生じ、また、新たな管理体制を布く必要がある。診療放射線技師としてより良い画像をより円滑に提供できるスペックやシステムを望むが、院内システムの大幅な変更となるために、読影に携わる医師をはじめとする他のスタッフ、施設規模、他の機器との整合性などの兼ね合いも考慮しなければならない。デジタル化に伴うデメリットとして、そのシステムが何らかの原因で破綻をきたした場合には院内及び患者への不利益は大きいものであり、日ごろの管理や機器メーカーとの連携が重要となり、保守契約の必要性も大きい。また、ガイドラインに示される真正性、見読性、保存性の電子保存の3原則を順守する必要があり、新たに学ぶべきことも生じる。

このようなシステムが一般化され始めた今日、診療放射線技師は検査に関わるもの以外のシステムの構築や機器選定、経営展望も考えていかなければいけない時代になっているのではないかと考えさせられる。



3) 春日部市立病院 工藤年男

「胃バリウム検査の実際」と題して、3施設から胃検査に対しての工夫・応用について発表があった。内容は各自スライドによる説明と、検査時の状況をビデオ上映で頂いた後、発表者3人が壇上に上がり、ディスカッション形式で会場参加者と検討会を行った。

1、社会医療法人財団石心会狭山病院 佐藤 秋生氏

胃検査は、その時の環境と患者状態が検査に影響するとして、硬い撮影台の苦痛を考慮するため撮影台にマットを敷き、体位変換時の苦痛緩和に役立っている。また、手すりには頭低位時の滑り止めのゴムを巻き付け、検診者に対し安心を与える工夫をされている。食道下部撮影では開いた二重造影になるタイミング観察に注意した撮影を行い、腹臥位正面撮影では枕の使用もしくはヒップアップ撮影をされているとの発表であった。

2、豊岡第一病院 山下 隆行氏

受診者に協力を得る目的で、接遇に重点を置いた検査風景時の写真を用いた説明を行い、胃バリウム検査を理解して頂きスムーズに検査を行える工夫をされている。検査中でも検診者自身の胃をモニターで観察して頂き、撮影説明を実施されている。

撮影技術としては、胃形による回転法の変化と圧迫頭を用いた撮影工夫をされている。撮影法を前壁二重造影撮影において枕を差し込む時に、撮影台をある程度起倒した状態で、患者の上体も起こしてから枕を入れる工夫をされている。使用する枕も、胃形の違いにより工夫した枕を作成し使用している。

3、入間市医師会 宮野 博希氏

良質な胃検査を実施するための工夫として、健診者と短時間に信頼関係を得るためコミュニケーションの充実に努めている。①ゆっくり話す②否定的な言葉を使わない③上手く動けたら褒めることに重点を置いている。

技術的な工夫としては、検診者の多くが高齢者であり、前壁撮影では頭低位の角度を少なくした撮影を行っている。前壁撮影時では、日本消化器がん検診学会が推奨する新・撮影法を導入した枕を使用した撮影を行い、捻れた胃形にはX管球を斜入射で撮影を行い死角の無い撮影を行っている。

会場からは、上部消化管撮影時の工夫や注意点の質問が多く聞かれた。特に前壁撮影時の工夫として、胃形による枕の形や入れ方について多くの質問があった。

横胃や牛角胃の前壁撮影では、鉤状胃撮影とは違い、胃形に合った前壁撮影枕の使用が不可欠で有り、枕の堅さ、大きさ、高さ、入れる体位、入れる位置により違いがあります。

今後も前壁撮影において、有効的な枕の形や工夫について比較研究した発表を期待したい。



平成24年度 第2地区第2回勉強会開催報告

日 時：平成24年5月17日（木）18:30～20:30

場 所：所沢市保健センター 3F会議室

参加者：58名

1) 所沢市市民医療センター 中邑 友香

本セッションでは、富士フィルムメディカルの宮野氏にデジタル式乳房用X線診断装置AMULETfの製品紹介をしていただいた。

このAMULETfは昨年2011年9月に発売され、世界最小画素50 μ mの直接変換型のFPDを搭載している。2008年発売のAMULETと比較すると、X線検出器などは同じだが読み出し方式がTFT方式からフジ独自の、Direct Optical Switchingテクノロジーになり、電気ノイズの低減と画素サイズ50 μ mを両立可能とし撮影間隔が15秒と短縮されている。また、撮影後から画像表示までの時間も8秒となっている。

高精細画像と効率のよいワークフローにより、診断しやすい高画質画像を提供する上、精度管理ソフトウェア対応となっており、手間のかかる日常の品質管理を簡単に実施する機能もついている。

また、3Dマンモグラフィについての興味深い製品紹介もしていただいた。

3Dマンモグラフィとは、従来のステレオ撮影のように僅かに角度を変えて自動で2方向撮影をし、高精細画像モニターに重ね合わせて偏光フィルター付き眼鏡で立体的に見るという仕組みである。

乳腺と石灰化の3D画像を見せていただいたが、立体的に見えるので皮膚の石灰化などは一目瞭然で、乳腺の構築の乱れと正常乳腺の重なりも区別できるので、診断の助けになることは間違いないだろうと思われる。

本セッションが一部でも各施設、各参加者の今後の業務への還元の一助になれば幸いである。



2) 所沢ハートセンター 大西 圭一

国立障害者リハビリテーションセンター前野氏より「MRI・X線（デジタル）の応用の可能性について」の発表があった。

前野氏は、f-MRI、MRSの時間依存について研究に携わり数多くの論文を投稿している。

論文によると、高次脳機能評価の信憑性を高めるためには時系列的な賦活信号の変化を知ることであり、また数秒の短時間刺激信号の描出は時間分解能を高めることにつながり今後、高次脳機能の評価を大きく変える可能性を秘めているとある。

MRSについても時間依存された代謝物質の変化を確認することにより高次脳機能検査の応用に可能性があるとされている。

今回の発表においても時間依存の有用性を話して頂き、またMRSの研究を論文化する際には年齢群、性差の検証をしっかりしないといけないと述べている。

将来的な展望として下肢損傷予防や変形性関節症の定量評価への挑戦について紹介頂いた。

座長の私も含め、会場の参加者は臨床現場に携わっているものがほとんどであったため、質問はなかったが、私からMRSの測定再現性の問題を解決するために技術的な進歩はどこまで進んでいますかと質問させて頂いた。技術的な進歩はほとんどないとの回答であった。メーカーの更なる技術進歩が待たれるところである。

前野氏は、研究発表、論文投稿を数多くしており、学会発表また論文投稿の取り組み方はとても勉強になった。

我々放射線技師は、日々の検査に対してより良い検査をするためには、どうすべきか常に考えなくてはならない。物理評価、臨床評価、撮影技術の向上など多種あるがこれらを検証し学会発表すべきである。

間柴医院の中村氏より「日立64列マルチスライスCT SCENARIA（シナリア）使用報告」について発表があった。内容としてはCTCについてと心臓CTについての発表であった。

間柴医院では、CF後にCTCを行っているため、Ascending-colonの検査不十分さが示唆された。今後検証して、改善して頂きたい。

心臓CTに関してはIntelli IPを使用していないということであったが明確な根拠が示されていなかった。臨床で使えるように今後も詳細な検討を期待したい。

今回、スライドには出ていないが体幹部CTでIntelli ECの使用状況を聞いたところ使っていないということであった。これも明確な根拠を聞くことは出来なかったが、CTにおける画質の確保とX線被曝抑制を両立させるCT-AECは必要不可欠なので、使用できるよう検証していただきたい。

埼玉県内には日立64列CT導入施設は少ないため今後も詳細な検討及び発表を期待したい。

3) 公益社団法人 地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター 中古 安俊

2008年に頸動脈ステント留置術（以下CAS）の保険承認がされて早くも4年が経過した。CASを施行する施設も多くなり、今回は改めてCASの基礎的な内容について2施設の方に講演していただいた。

はじめに、圏央所沢病院の石川雄三氏にCASの術前検査、IVR中での技師の役割について講演していただいた。術前で施行されるモダリティは、超音波、頭頸部MRI、CT、血管撮影があげられた。頸動脈超音波と頸動脈MRI・MRAにおいて血管の狭窄率、プラークの形状や性質の評価が行われる。特にMRIでは脈波同期撮影によってプラークの性質を詳細に得ることができ、CAS術前の頸動脈MRAでは通常の撮影よりも範囲を広げカテーテルのアクセスルートを非造影で確認している。圏央所沢病院ではキセノンガス吸入装置が導入されており、Xe-CTによる脳循環血流量の評価、ダイアモックス負荷による脳循環予備能の評価が行われている。脳循環予備能の評価は、術後合併症である過灌流症候群を予測することができ、術後の血压管理を決定するのに重要な役割を果す。血管撮影は頭蓋内血管の評価と、患側の頸部総頸動脈のDSA撮影、3DDSA撮影を施行し、血管径と病変長を計測し使用するデバイスを決定している。

IVR中の技師の役割として、清潔ビニールの装着、インジェクターの操作、ロードマップの設定、血流遮断時間やバルーン拡張圧の記録などがあげられていた。術前の血液データからeGFR（推算糸球体濾過量）を算出し、腎機能が低下している患者には造影剤を75%に希釈することを医師に促している。術前検査をふまえた症例提示もしていただいた。

つぎに、順天堂大学医学部附属順天堂医院の齊藤雅志氏にCASで用いられる手技法、デバイスについて講演していただいた。ガイドワイヤーの病変部通過、バルーン拡張、ステント留置を行う際にデブリスによる遠位塞栓を防ぐため、様々なプロテクション方法が用いられている。ディスタールプロテクション法、プロキシマルプロテクション法について詳しく説明していただいた。頸動脈用ステントは保険承認されているopen cell typeのPreciseとclosed cell typeのWallstentについてそれぞれの特徴について、また実際の症例提示や術中・術後の管理についても話していただいた。

最後に、手技方法やステントの選択は、術前検査で得られた情報によって決まり、施行されるモダリティは、患者の病態を把握するのに重要な役割を持ち治療に直結している。また、デバイスや医師が施行する手技についても、放射線技師が深い知識を持ち、医師とのスムーズな連携を図ることにより、安全な医療を提供できるのではないかと感じた。



第三支部

第三支部だより

第三支部理事 庭田 清隆

(1) 第1回 第三支部 勉強会報告

- 日時：平成24年6月21日(木) 19:00～
 場所：埼玉医科大学総合医療センター 5階大講堂 ゼミ1
 埼玉県川越市鴨田辻道町1981
- 内容：最新デジタルマンモグラフィ装置について
- ・シーメンス・ジャパン株式会社
 - ・GEヘルスケア・ジャパン株式会社
 - ・東芝メディカルシステムズ株式会社
 - ・株式会社日立メディコ
 - ・株式会社イメージ・ワン (マンモビューワデモ 18:30～ゼミ1)
 - ・株式会社東陽テクニカ (マンモビューワデモ 18:30～ゼミ1)



講演

- ・フルデジタルマンモグラフィについて
 埼玉医科大学総合医療センター 中央放射線部 杉村 瞳

(2) 第1回 第三支部 役員会報告

- 日時：平成24年6月21日(木) 21:00～
 場所：埼玉医科大学総合医療センター ゼミ1
 埼玉県川越市鴨田辻道町1981
- 内容：合同勉強会意見調整、川越市健康まつり実行委員について、他確認事項

(3) 第三支部・第三地区 平成24年度事業計画

- ア. 納涼会(平成24年7月28日)
- イ. リレー・フォー・ライフ川越参加・イベント開催(平成24年9月15～16日)
- ウ. ボウリング大会(平成24年10月25日 予定)
- エ. 川越市健康まつり(平成24年11月4日 予定)
- オ. 第2回 第三支部勉強会(平成24年11月22日 予定)
- カ. 第2回 役員会(平成24年11月22日 予定)
- キ. 第二支部・第三支部合同勉強会(平成24年12月1日 予定)
- ク. 新年会(平成25年1月5日 予定)
- ケ. 第3回 第三支部勉強会(平成25年3月21日 予定)
- コ. 第3回 役員会(平成25年3月21日 予定)
- サ. 平成24年度 第三支部 定期総会(平成25年3月21日 予定)

第三地区会

(4) 第三地区納涼会のご案内

日 時： 平成 24 年 7 月 28 日 (土) 19:30～

場 所： 手作り居酒屋 甘太郎 川越店
埼玉県川越市脇田町 9-3 三経 71 ビル 2F

会 費： 4,000 円 (新卒新入会会員 2,000 円)



(5) ごあいさつ

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 第三支部として昨年度と同様に勉強会を計画しております。また新たな試みとして、第二支部との合同勉強会を 12 月に開催いたします。たくさんの方の参加をお待ちしております。

第三地区の活動として、納涼会をはじめ様々な親睦会を計画しております。また本年度も 9 月に開催されるリレー・フォー・ライフ川越に参加いたします。

第三地区以外の方、非会員の方でも、たくさんの方が参加していただくことで、より一層支援の輪が広がると信じております。

本年度も役員一同、支部・地区活動に尽力して参ります。

ご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

第四支部

小柳洋二先生 公衆衛生事業功労賞受賞祝賀会報告

医) 秩父病院 近 藤 和 彦

平成24年4月27日(金)午後7時より、秩父市ナチュラルファームシティ農園ホテルにて、松本クリニック小柳洋二先生の公衆衛生事業功労賞受賞祝賀会が開催されました。

平日の開催で、さらに秩父という遠方にもかかわらず、多くの方のご臨席を賜りました。私は受付を担当していましたが、みなさん楽しそうに会場へ進まれる姿が大変印象的で、これも小柳先生の人徳の成すところであると思います。

祝賀会は、和やかな雰囲気(小柳先生と実行委員は少々緊張気味)のなか始まり、次第に席を離れて談笑する姿が多く見受けられるようになりました。私自身も多くの先輩方や同年代の方とお話ができて、大変有意義な時間を過ごせたと思っております。

祝辞は、小川会長、松本クリニック院長松本先生など多くの方からいただき、私の知らない小柳先生を知ることができました。また飲み仲間(?)のスピーチでは、会場から手渡されたビールを飲み干すハプニングもあり、その場の盛り上がりはピークに達し、それは落ちることなく終宴を迎えることとなりました。

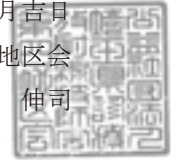
その後二次会へと移りましたが、会場まではバスでの移動となりました。二次会のご案内を当日したにも関わらず、予想をはるかに超える方のご参加をいただきました。中には予定を変更してまでご参加いただいた方もいらっしゃり、「さすが小柳さん!」と改めて感じさせられました。幹事としては想定外の人数に少々あわてましたが、会も無事終了することができ、また皆さまに十分楽しんでいただけた様子にホッといたしました。

最後になりますが、遠方より、また仕事を終えたその足で会場までお越しいただいた皆さまに感謝申し上げます。



会員各位

平成 24 年 6 月吉日
 埼玉県診療放射線技師会第 4 地区会
 会長 山田 伸司



平成 24 年度 第 4 地区会納涼会のご案内

若鮎おどる季節、会員の皆さまにおかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。また第 4 地区運営に際しましては、日頃大変お世話になり、感謝申し上げます。

さて、表題のとおり、今年度の納涼会を開催する運びとなりました。場所は公共交通機関を使用しやすい、熊谷駅前を選定しました。

皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

役員一同、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

記

日時 平成 24 年 7 月 27 日 (金) 19 : 00 ~

場所 酒菜工房 禅や

熊谷市 筑波 3 - 8 5 東屋ビル 1 F

TEL 048-525-4405

zenya@kissou.com <http://www.kissou.com>

(タウンページ情報)

会費 5,000 円 (当日徴収いたします)

なお、会場の都合もありますので参加される方は、7 月 13 日までにお近くの各役員までご連絡をお願いします。

以上

小川赤十字病院	山田 伸司	TEL	0 4 9 3 - 7 2 - 2 3 3 3 s-yamada@sart.jp
小鹿野中央病院	関根 茂夫	TEL	0 4 9 4 - 7 5 - 2 3 3 2
東松山市立市民病院	山崎 由紀敏	TEL	0 4 9 3 - 2 4 - 6 1 1 1
深谷赤十字病院	斎藤 幸夫	TEL	0 4 8 - 5 7 1 - 1 5 1 1
深谷赤十字病院	小林 成幸	TEL	0 4 8 - 5 7 1 - 1 5 1 1
行田中央総合病院	萩原 貴之	TEL	0 4 8 - 5 5 3 - 2 0 0 0
熊谷総合病院	清水 浩和	TEL	0 4 8 - 5 2 1 - 0 0 6 5
羽生総合病院	大野 渉	TEL	0 4 8 - 5 6 2 - 3 0 0 0

第15回秩父市保健センターまつり 参加報告

第4地区 萩原 貴之

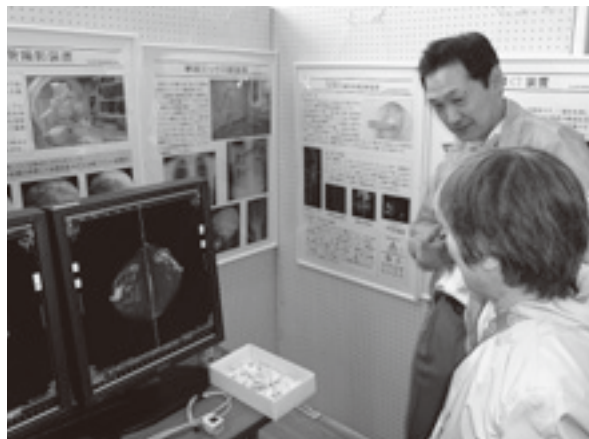
平成24年6月3日（日）秩父市保健センターにて、「家族みんなで健康チェック！」をテーマに、第15回秩父市保健センターまつりが行われました。当日は雨が降るあいにくの天気の中、お子さんから高齢者まで、幅広い世代の方々と賑わいを見せました。

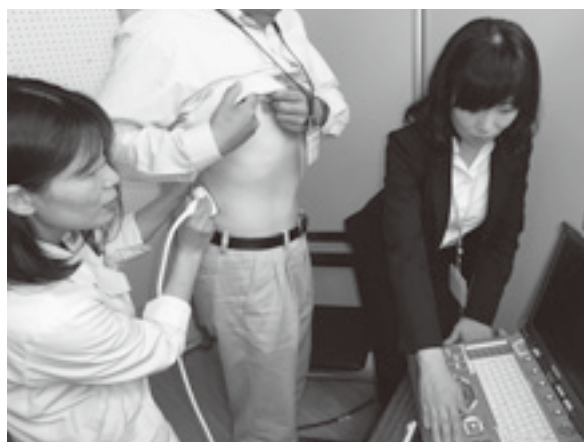
埼玉県放射線技師会第4地区会では公益活動の一環として毎年参加しています。「あなたのための医療画像展」として「パネル展示」「骨密度測定」「腹部エコー体験コーナー（肝・腎コントラスト）」「子供のためのヨーヨー祭り」「コニカミノルタ 血中酸素濃度（SPO₂）測定」「コニカミノルタ ワークステーション展示」を企画しました。来場者数は骨密度測定156名、腹部エコー体験52名、と今回も大盛況でした。

腹部エコー体験（肝・腎コントラスト）では秩父臨床医学研究所から臨床検査技師の山本祐子様、河合芳美様にもご参加していただき、多くの来場者に丁寧な手技でご協力いただきました。来場者の中には初めてのエコー体験の方もいらっしゃり、多くの質問をいただき関心の高さが伺えました。

これからもこのような活動を通じて我々診療放射線技師の職種・役割を知っていただき、多くの方の健康維持のお手伝いできればと思います。

最後に実行委員の方、ご協力いただいたメーカーの方、大変お疲れ様でした。





第15回秩父保健センターまつり実行委員

会員名	施設名	会員名	施設名
関根 茂夫(実行委員長)	小鹿野中央病院	小柳 洋二	松本クリニック
山田 伸司	小川赤十字病院	山中 隆二	秩父病院
小林 茂幸	深谷赤十字病院	吉田 真一	秩父病院
萩原 貴之	行田中央総合病院	近藤 和彦	秩父病院
清水 浩和	熊谷総合病院	中村 誠	秩父病院
大野 渉	羽生総合病院	旭 拓也	秩父病院
長谷川 英治	羽生総合病院	玉川 敏	秩父市立病院
浅見 肇	深谷赤十字病院	引間 択朗	秩父市立病院
		勅使河原 真由美	秩父臨床医学研究所

臨床検査技師

秩父臨床医学研究所 山本 祐子様 河合 芳美様

ご協力メーカー

コニカミノルタヘルスケア株式会社 水野様 松谷様

栗原医療器械店株式会社 田中様

株式会社カイゲン 今泉様

第五支部



第五支部

情報交換会

場所は春日部市にある市民活動センター〔ふれあいキューブ〕
会議室をご用意いたします

7月19日 19:00～

8月23日 19:00～

詳しくはHPなどのご案内いたします。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

(グチや世間話でもOKです)

テーマなど皆様のご意見をお待ちしています。

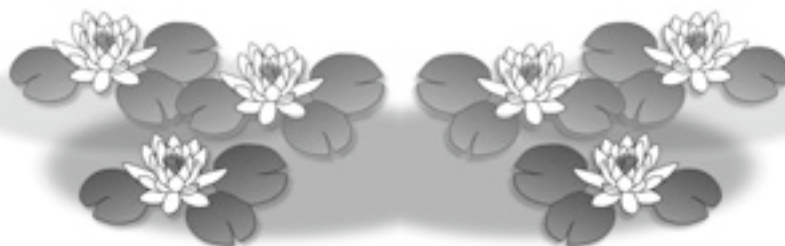


5月の交換会は23名の参加をしていただきました。


手探りの状態ではじめていますので何かと不手際が目立つと思いますがご容赦を……

五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)

今年の越谷市民祭りは10月21日の開催です
ご協力をお願いいたします。



第六支部



埼玉県放射線技師会第六地区

発行：埼玉県放射線技師会第六地区会

1. 巻頭言 副会長 高嶋 豊
2. 第1回定期講習会報告

2012年6月10日 平成24年度 第2号

震災から一年 《心と想い》

丸山記念総合病院 高嶋 豊

東日本大震災から一年が過ぎ、さまざまな人の強さ・想いを考えることが多くなりました。震災直後の映像や震災に遭った方々の話を聞くたびに、どういう思いだったのか考えるだけで辛くなります。そこで、今回は人の心・想いについて考えました。私たちは、多くの人と触れ合うと同時にたくさんの感情と向き合っています。日常生活・仕事場、多くの場面で人と接しています。これだけ多くの感情に接しているにもかかわらず、自分自身の想いをうまく伝えられないことが多々あることに気付く時があります。今春の選抜高校野球、石巻工業高校の選手宣誓で私は感銘を受けました。そこには、“何をすべきか・何をしたいのか・何を大切にしているのか”など自分達の想いが的確に伝えられていました。人はとかく日常生活の忙しさや、きっと分かっているだろうという一方的な考えで気持ちをきちんと相手に伝えず、また相手の気持ちも聞かず過ごしていることが多いと思われま。私自身も、実際自分の想いにも相手の想いにも無頓着でいたように思います。でも今回、石巻工業高校の選手宣誓を聞いて考えさせられました。

医療従事者として、患者様と日々向きあう仕事をしていく中で、果たしてどれだけ患者様の想いに気付くことが出来ているだろうか？

病院に来院するほとんどの患者様は、心や体に不安・苦痛を抱えている方が多い。私たちは、病気や検査のことは理解していたとしても、患者様の痛み・不安をすべて知ることは不可能です。多くの病院はたくさんの患者様を抱え日々過酷な勤務をしていると思います。そのような中で、果たしてどれだけ患者様の身になり医療を行っているのでしょうか。今、医療の現場で求められているものは、人の心を察する力なのではないかと思えます。現在、医療の発展は進み、たくさんの検査や技術の進歩により多くの病気を発見・治療することが出来るようになってきました。そのような中で、忘れてはいけないもの、それは患者様の想い。日々の勤務の中で、業務のみを遂行し、検査を進めていくのは簡単ですが、人と人が接していることを決して忘れてはなりません。こちらの都合を押し付けるのではなく、患者様と十分に意思の疎通をし、不安や苦痛を少しでも和らげ信頼していただいて

から医療を提供する。この気持ちを大切にしていかなければならないと思います。これは、患者様に限らず職員として、また人として常に必要な事であると考えます。人と人が接

する時、そこに信頼関係が生まれれば必ず不安は取り除かれる。どんな場面においても、どのような状況にあってもこの姿勢を大切にしていこうと思います。

平成 24 年度 第 1 回定期講習会報告



埼玉県立小児医療センター 織部祐介

平成 24 年 6 月 8 日、上尾中央総合病院にて平成 24 年度第六地区会第 1 回定期講習会が開かれ、参加させていただきましたので報告させていただきます。

今回の講習会は演題が 3 題ありました。

1 題目は、指扇病院の安川氏によるもやもや病についての講演がありました。もやもや病の発生機序だけでなく、こういった治療が行われるのか。また、実際の症例画像なども見せていただきとても勉強になり、興味深く聴かせていただきました。

2 題目は、さいたま赤十字病院の大河原氏によるディズニーから学ぶ患者接遇という講演を聴きました。

キャスト（ディズニーで働いている人）が理念としている 4 つの鍵である、『Safety：安全』、『Courtesy：礼儀』、『Show：ショー』、『Efficiency：効率』について話をさせていただきました。それぞれを、『医療安全』、『コミュニケーションの重要性』、『毎日を初回の気持ち』、『チーム医療』といった医療従事者の場合に例えて講演をしていただきました。

3 題目は、社会保険大宮総合病院の竹内氏の一般研究発表で、胃 X 線検査における胃粘膜萎縮度判定と胃癌リスク検診（ABC 法）の相関性の検討という内容でした。

私が今までは関わったことのない分野でとても難しい内容でしたが、非常に分かりやすく解説して下さり、研究内容にも感心しました。

今回講習会に参加をさせていただいたことで、これからの勉強会で様々な知識を得る必要性を感じ、勉強だけでなく実際の臨床の場での患者に対する接遇も大切にしていきたいと思いました。

このような貴重なお時間に参加させていただきました本当にありがとうございました。